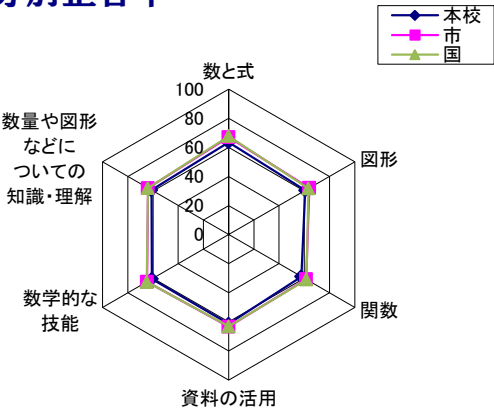


宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

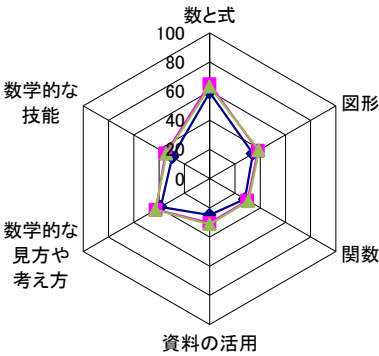
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.5	67.0	67.7
	図形	60.7	64.1	63.4
	関数	57.7	61.4	61.7
	資料の活用	61.3	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	60.8	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	61.2	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	59.2	64.8	63.2
	図形	34.3	38.3	39.0
	関数	28.0	29.9	30.7
	資料の活用	24.9	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.8	42.6	42.8
	数学的な技能	29.5	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

- 良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒の割合が、全国に比べ12.3ポイント高い。
 - 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている生徒の割合が全国に比べ5.1ポイント高い。
 - 数学ができるようになりたいと思っている生徒の割合が全国に比べ6.7ポイント高い。
 - 数学Bの問題で解答時間が足りなかったと感じている生徒が全国に比べ5.2ポイント高い。
 - 説明する問題について、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合が、8.8ポイント低い。

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正の数と負の数の計算において、計算の決まりにしたがって計算できることについては、県平均を3.8ポイント、全国平均を2.7ポイント上回っている。 ●一次式の計算ができることについては県平均を9.1ポイント、全国平均を12.0ポイント下回っている。 ●発展的に考え、予想した事柄を説明することができることについては、県平均を8.6ポイント、全国平均を7.4ポイント下回っている。	・知識を確実に習得させることと、演習を繰り返すことで計算する力をつけていきたい。また、不注意な計算ミスも見受けられるので、見直しをするように指導していく。
図形	○回転によって構成される空間図形の形を理解していることに関して全国平均を6.0ポイント上回っている。 ●空間における直線と平面の垂直について理解していることについては、県平均を12.7ポイント、全国平均を10.4ポイント下回っている。 ●同位角の意味を理解していることについては、県平均を6.5ポイント下回っている。	・空間図形において、実物を実際の授業で示すなど、生徒の理解が深まるような工夫を今後も継続していく。その上で、ドリル学習を行ない、図形の特徴や位置関係などを着実に習得させる。
関数	○情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができることについては県平均を5.2ポイント、全国平均を4.8ポイント上回っている。 ●反比例のグラフが2つのなめらかな曲線であることを理解していることについては、県平均を7.4ポイント下回っている。 ●比例の式についてそのグラフ上の点の座標を求めることについては、全国平均を10ポイント下回っている。	・関数について、苦手だと感じる生徒が多いため、まず興味・関心をひく事例を考えることが必要である。「式に表すこと」、「グラフに表すこと」、「表に表すこと」を関連づけながら、ドリル学習を取り入れ、繰り返し復習をしていく。
資料の活用	○中央値、度数分布表、場合の数など理解について、ほぼ全国平均の値を示している。 ●資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、県平均を8.7ポイント、全国平均を9.7ポイント下回っている。	・学習ドリル等を使って資料の活用の定着を図る。特に資料の傾向を捉え、理由を的確に説明できるよう、普段の授業から言語活動を取り入れ、自分の意見を発表できるよう指導の充実を図る。